

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	衛生学・公衆衛生学	
科目担当者	関矢 稔	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	理療科用 疾病の成り立ちと予防Ⅰ 改訂8版	
使用参考書		
評価方法	前期・後期の学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行います。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、衛生学・公衆衛生学が予防医学として発展してきた歴史や、個人の健康と公衆の衛生とが相互に関連し合っていることの仕組みと意義を理解することにより、施術を行うために必要な資質・能力を身につける事を目標としています。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は教科書と教官作成の資料を併用して進めていきます。既習内容については発問を交えて知識の確認をします。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	64時間
前 期 < 1 8 週 >	前期計	36
第1章 衛生学及び公衆衛生学の意義		1
第2章 健康の保持増進と生活		14
第3章 生活環境と公害(生物学的環境因子を除く)		13
第4章 産業保健		3
第5章 精神保健		2
第6章 母子保健		2
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 15 週 >	後期計	28
第7章 生活習慣病と老人保健		6
第8章 感染症対策(生物学的環境因子を含む)		8
第9章 消毒法		4
第10章 疫学		2
第11章 衛生統計と人口統計		5
期末試験		
期末試験の講評		1
復習		2

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程 3年	
科 目	臨床医学各論	
科 目 担 当 者	関矢 稔	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	3単位・90時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	生活と疾病Ⅲ（臨床医学各論）第4版 （日本理療科縦陰連盟強化図書編集委員会編）	
使 用 参 考 書	臨床医学各論 第2版（公益社団法人 東洋療法学校協会編）	
評 価 方 法	前期・後期の学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行います。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	疾患ごとにその原因、症状、発症機序、検査、治療等、現代医学の知識と技術を学び、臨床の対象者について、適応の判断や病態把握が適切にできる能力の育成を目指します。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は教科書を中心に進め、既習内容については発問を交えて知識の確認をします。授業の進度に合わせて随時演習課題を提示します。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	96時間
前 期 < 18 週 >	前期計	54
ガイダンス説明		1
第3章 消化器疾患		15
第4章 呼吸器疾患	第4章 呼吸器疾患	8
第5章 循環器疾患	第5章 循環器疾患	10
第6章 血液・造血器疾患		7
第7章 腎・泌尿器疾患		6
第8章 内分泌疾患		6
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 14 週 >	後期計	42
第9章 男性生殖器疾患		2
第10章 代謝・栄養疾患		6
第11章 膠原病・膠原病類似疾患		6
第15章 眼科疾患		4
第16章 耳鼻咽喉科疾患		4
第17章 婦人科疾患		4
第20章 感染症		5
第14章 皮膚科疾患		4
第18章 精神科疾患		4
第19章 小児科疾患		2
期末試験		
期末試験の講評		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	リハビリテーション医学	
科目担当者	石田 亮介・(佐藤 浩輔)	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	日本理療科教員連盟教科書委員会編「生活と疾病ⅠA・ⅠB」	
使用参考書		
評価方法	前期・後期とも、期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識を施術に応用する能力と態度を修得する授業です。	
授業の展開	過去5年のあはき師国家試験出題傾向に沿った授業をします。国家試験に出題されやすいキーワードを学習のポイントとして指導します。授業の冒頭では発問による知識定着の確認をします。前期は、リハビリテーションの概要からリハビリテーション治療まで、後期は基礎運動学と疾患別リハビリテーションを学習します。	
自己学習の進め方	授業中に提示された要点について、理解を深めるために復習をして下さい。理解できないところがあれば、まず教科書を調べ、それでも解決できない場合には、次の授業のときに質問して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 64時間	
前 期 < 18 週 >	前期計 36	
1 リハビリテーションの概要	5	
2 障害の評価	8	
3 リハビリテーション治療	9	
4 基礎運動学	8	
5 疾患別リハビリテーション		
(1) 脳血管障害	4	
中間試験(筆記試験)		
期末試験(筆記試験)		
試験の解答解説	2	
後 期 < 14 週 >	後期計 28	
5 疾患別リハビリテーション		
(1) 脳血管障害(つづき)	2	
(2) 脊髄損傷	4	
(3) 脳性麻痺	4	
(4) 切断	4	
(5) 呼吸器疾患	3	
(6) 骨・関節疾患	4	
(7) 神経疾患	2	
病院見学実習	1	
国家試験対策	2	
中間評価(筆記試験)		
期末試験(筆記試験)		
試験の解答解説	2	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印 ○

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	医療概論(社会保障制度及び職業倫理を含む)	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	医療と社会 改定第7版 オリエンス研究会 編	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。 学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。 この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	現代の医療制度と社会保障制度及び職業倫理について基礎知識の習得とともに、社会性豊かな施術者としての心構えと態度の修得を目的とします。	
授 業 の 展 開	授業は教科書を中心に進めます。授業の冒頭では前回の復習、授業の終了前にはその授業の要点をまとめます。授業進度に合わせ発問を交えて知識の確認をします。試験前には国家試験過去問題を使用して問題演習を行います。	
自己学習の進め方	授業後、教科書やまとめ資料の内容を確認し理解を深めてください。 疑問がある場合は、担当教官に質問し確認してください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	32時間
前 期 < 18 週 >	前期計	18
ガイダンス		1
第1章 現代の医学と医療		8
第2章 社会保障制度		7
まとめと問題演習		1
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 14 週 >	後期計	14
第2章 社会保障制度		3
第3章 医療倫理 *職業倫理		7
第4章 医学史		1
まとめと問題演習		2
期末試験		
期末試験の講評		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	東洋医学臨床論（あはきの適応の判断を含む）	
科目担当者	阿部 博明	
単位数・年間時間数	5単位・150時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	配布資料	
使用参考書	臨床理療学（あはき師用東洋医学臨床論）オリエンス研究会著 日本理療科教員連盟教科書委員会編	
評価方法	前期・後期とも、中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	臨床で遭遇する代表的な疾患に対して、症状および所見から病態を把握し、疾患の鑑別及びあはき施術の適否の判断と効果的な治療方法について学習する授業です。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業の終了時には本日の授業の要点をまとめます。授業は配布資料を中心に進め、既習内容については国家試験の過去問を使って知識の確認を行います。学習効率を高めるため、疾患の鑑別とあはきの適否の判断は一つの項目で学びます。臨床診察学の授業と連携しながら、必要に応じて検査法の実技も行います。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、経絡経穴概論、東洋医学概論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。また、利用者の皆さんには本授業の復習による知識の定着とともに、臨床実習などでの活用を通して、治療技術の向上を期待します。	
授 業 内 容	(予 定)	合計 160時間
前 期	< 18 週 >	前期計 90
1. オリエンテーション		1
2. 治療論（総論、治療原則）		10
3. 疾患の鑑別とあはきの適応の判断及び症候別治療（肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、膝痛、運動麻痺、頭痛、顔面痛、顔面麻痺、歯痛、眼精疲労、鼻閉、脱毛症、めまい、耳鳴り、咳嗽、喘息、胸痛、腹痛）		58
（うち、あはきの適応の判断 15時間） *あはきの適応の判断		
4. スポーツ傷害の鑑別とあはきの適応の判断及び理療施術		14
（うち、あはきの適応の判断 4時間） *あはきの適応の判断		
5. 国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の解説を含む）		5
6. 中間試験		
7. 中間試験の解答解説		1
8. 期末試験		
9. 期末試験の解答解説		1
後 期	< 14 週 >	後期計 70
10. 疾患の鑑別とあはきの適応の判断及び症候別治療（悪心、便通異常、月経異常、排尿障害、ED、高血圧症、低血圧症、食欲不振、肥満、発熱、のぼせと冷え、不眠、疲労と倦怠、発疹）		48
（うち、あはきの適応の判断 10時間） *あはきの適応の判断		
11. 高齢者の疾患に対するあはきの適応の判断及び理療施術		10
（うち、あはきの適応の判断 3時間） *あはきの適応の判断		
12. 国試対策（演習問題の実施、模擬試験問題の分析を含む）		10
13. 中間試験		
14. 中間試験の解答解説		1
15. 期末試験		
16. 期末試験の解答解説		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	臨床診察学（生体観察を含む）	
科目担当者	阿部 博明	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	なし（資料を配布します）	
使用参考書	臨床推論 ～臨床脳を創ろう～ 錦房株式会社	
評価方法	前期、後期とも学期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な医療面接と生体観察を含む身体診察による臨床推論の実際についてを学び、施術を適切かつ効果的に行う能力を習得することを目的とします。	
授業の展開	前期では、臨床実習で必要となる医療面接と、筋・骨格系症状の身体診察を中心に学習します。後期では、筋・骨格系症状の診察法を学習します。随時、国家試験の過去問を使っての知識の確認、模型の観察や触察により生体観察を行います。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの解剖学、臨床医学総論、理療臨床医学各論の知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。徒手検査等の技術は、「体の動きのイメージ」と「身体で覚えること（反復練習）」が重要です。実習室で練習したい場合には、担当教官が立ち会いますので、遠慮なく声をかけてください。	
授 業 内 容	(予 定)	合計 32時間
前 期	< 18 週 >	前期計 18
1. 診察の概要（医療面接）		1
2. 生体観察を含む身体診察の進め方の概要 *生体観察		1
3. 筋・骨格系症状の診察		
（1）頸肩腕部の生体観察 *生体観察		9
（2）肩こりの診察		2
（3）肩関節痛の診察		2
（4）頸肩腕痛の診察		2
4. 期末試験		
5. 期末試験の講評		1
後 期	< 14 週 >	後期計 14
※ 3. 筋・骨格系症状の診察のつづき		
（5）腰下肢の生体観察 *生体観察		3
（6）腰下肢痛の診察		3
（7）膝関節の生体観察 *生体観察		3
（8）膝関節痛の診察		2
6. 自律神経症状の診察		2
7. 期末試験		
8. 期末試験の講評		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	臨床取穴学(生体観察を含む)	
科目担当者	小原恵子	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	東洋療法学校協会編『新版 経絡経穴概論(拡大版第2版)』	
使用参考書		
評価方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。前期・後期とも学期末試験と平常点で評価します。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な取穴法、選穴法、配穴法について生体観察を通じて学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度の修得を目的とする。	
授業の展開	取穴の基礎を学習し取穴基礎を基に選穴法・配穴法の修得を行います。鍼灸施術形式における配穴法の運用を具体的な愁訴を例に挙げながら学習します。	
自己学習の進め方	授業中に修得した取穴法について、授業時間以外にも反復練習をし取穴の感性を養ってください。臨床実習等で活用出来るよう練習を積み重ねてください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 32時間	
前 期 < 18 週 >	前期計 18	
1 取穴法の基礎と生体観察(うち、生体観察2時間) *生体観察		
(1) 経脈の流注と取穴姿勢、取穴方向	1	
(2) 切経と取穴技術	1	
2 選穴法の基礎		
(1) 選穴法の概要	1	
(2) 選穴法の原則	1	
3 配穴法の基礎		
(1) 配穴法の概要	1	
(2) 配穴法の原則	1	
4 鍼灸施術形式における配穴法の運用(うち、生体観察8時間) *生体観察		
(1) 正経治療法	10	
復習	1	
期末試験		
期末試験講評	1	
後 期 < 14 週 >	後期計 14	
4 鍼灸施術形式における配穴法の運用(うち、生体観察6時間) *生体観察		
(2) 奇経治療法	6	
(3) 太極療法	2	
(4) 中医学弁証による治療法	3	
(5) その他の施術形式	1	
復習	1	
期末試験		
期末試験講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	地域理療と理療経営	
科 目 担 当 者	佐藤浩輔	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 地域理療と理療経営 社会鍼灸あん摩学序説	
使 用 参 考 書	特になし	
評 価 方 法	前期、後期ともに、中間期に口頭試験、期末に筆記試験を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な地域社会における理療の役割、医療・福祉のあり方、及び理療の経営に必要な知識について学習し、施術者並びに経営者としての能力と態度を修得する授業です。	
授 業 の 展 開	前期は少子高齢化社会が直面する社会保障制度の現状を通して、あはき業との関係性を学習していきます。後期は地域リハビリテーションにおける包括ケアシステムの中で、あはき師がどのように貢献するのかを、皆様の経験を通じて共に考える授業とします。	
自己学習の進め方	教科書及び配布資料を精読し、自分なりに理解を深めるためのノートを作成して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	64時間
前 期 < 18 週 >	前期計	36
1 地域社会と理療		10
2 少子高齢化社会の現状と課題		6
3 社会保障制度の体系		8
4 医療業務と社会保険制度		12
中間試験(口頭試験)		
期末試験(筆記試験)		
後 期 < 14 週 >	後期計	28
5 理療経営の基礎		10
6 理療経営の展開		10
7 機能訓練型デイサービスの起業		2
8 理療と就労		6
中間試験(口頭試験)		
期末試験(筆記試験)		

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	あん摩マッサージ指圧の歴史と理論	
科目担当者	山本 浩二	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	基礎保健療Ⅱ（保健療理論）改訂版	
使用参考書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧理論 第3版	
評価方法	各学期末に筆記試験を実施し、その得点を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、あん摩マッサージ指圧の歴史を知るとともに、現代の基礎及び臨床研究から手技の作用機転を学びます。また施術者として理論づけられた根拠に基づき施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は教科書に沿って進め、要点を整理し、既習科目と関連付けられるように説明していきます。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される項目ごとの国家試験過去問題集を何度も回答して問題に慣れましょう。また、基礎となる解剖学、生理学、あん摩マッサージ指圧実技の復習を行い、わからないところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。	
授 業 内 容 (予 定)		合計 64時間
前 期 < 18 週 >		前期計 36
1	あん摩マッサージ指圧の意義	2
2	あん摩の歴史と基礎	10
3	マッサージの歴史と基礎	8
4	指圧の歴史と基礎	3
5	その他の関連する治療法	2
6	あん摩マッサージ指圧の臨床応用	3
7	リスク管理	4
	復習、その他	4
	期末試験	
後 期 < 14 週 >		後期計 28
8	関連学説	4
9	あん摩マッサージ指圧の基礎理論	10
10	あん摩マッサージ指圧の治効理論	2
	復習、その他	12
	期末試験	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	はりきゅうの歴史と理論	
科 目 担 当 者	佐藤浩輔	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	基礎理療学Ⅲ（理療理論）改訂第10版 オリエンス研究会編	
使 用 参 考 書	特になし	
評 価 方 法	各学期ごとに期末試験を行い学期末の評価とします。学年末には前期・後期の評価を平均し（小数点以下切捨て）、この学年末評価が60点以上であることを単位修得の要件とします。	
科目の概要と学習の目的	はり師、きゅう師として必要な鍼灸の基礎及び臨床能力並びに歴史について学び、施術を適切かつ効率的に行う能力と態度を修得する授業です。	
授 業 の 展 開	過去5年のはき師国家試験出題傾向に沿った授業をします。国家試験に出題されやすいキーワードを学習のポイントとして指導します。前期は、鍼の基礎からリスク管理まで、後期は鍼灸の治効理論と関連学説を学習します。	
自己学習の進め方	出題傾向に沿った練習問題を配布します。授業の最後に指定された練習問題を必ず解いておいて下さい。これらを解くことで、単元ごとに学習の要点をまとめ、講義への理解を深めるようにして下さい。また、理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	64時間
前 期 < 18 週 >	前期計	36
1 鍼の基礎と歴史		8
2 基本的な刺鍼方法		4
3 特殊鍼法		4
4 灸の基礎		6
5 灸法の種類		4
6 鍼灸の臨床応用		6
7 リスク管理		4
期末試験（筆記試験）		
後 期 < 14 週 >	後期計	28
8 鍼灸の治効理論		12
9 関連学説		16
期末試験（筆記試験）		

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程3年	
科 目	課題研究	
科目担当者	藤原 太樹(解剖学) / 関矢 稔(生理学)	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能 解剖学 第2版 盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能 生理学 第3版	
使用参考書		
評価方法	学期末には解剖学・生理学それぞれに試験を行い、学年末にはその平均値(小数点以下切捨て)を算出します。課題研究としての学年末評価は、解剖学・生理学それぞれの学年平均を合算し、その平均(小数点以下切捨て)とします。	
科目の概要と学習の目的	理療における職業資格の取得と臨床能力の向上に向けた課題を設定し、専門的な知識と技術を深めるとともに、問題解決能力や総合的な応用力を養い、能動的な学習態度を育成する科目です。資格取得に向けて効果的な学習展開ができるよう、今年度は国家試験に出題される全科目の基礎となる解剖学・生理学の2科目を選定し、基礎学力の向上と、他科目との関連付けの強化を行っていきます。	
授業の展開	利用者の皆さんが各自でまとめノートを作成し、これを活用した問題演習を行います。問題演習においてはその正誤にとどまらず、問題全体の解説ができるようになることを目指します。また、国家試験対策として、他の科目との横断的な学習を実施し、複合的応用問題への対応力を強化します。	
自己学習の進め方	問題演習の反復と、疑問点を自ら率先して解決する学習の工夫を期待します。また、作成した自作ノートについては、問題演習やその他の自己学習を通して更新し、より使いやすく充実したノート作成を目指していただきたいと思います。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 64時間	
前 期 < 1 8 週 >	前期計 36	
解剖学	18	
1. 第1章 人体の構成		
2. 第2章 循環器系		
3. 第3章 呼吸器系		
4. 第4章 消化器系		
5. 第5章 泌尿器系		
6. 第6章 生殖器系		
7. 第7章 内分泌系		
期末試験		
期末試験 講評		
生理学	18	
1. 第4章 消化と吸収		
2. 第3章 呼吸		
3. 第2章 循環		
4. 第7章 排泄		
5. 第8章 内分泌		
期末試験		
期末試験 講評		

後 期 < 1 4 週 >	後期計 28
解剖学	14
1. 第8章 神経系	
2. 第9章 感覚器系	
3. 第10章 運動器系	
期末試験	
期末試験 講評	
生理学	14
1. 第9章 生殖・成長と老化	
2. 第5章 代謝	
3. 第14章 生体の防御機構	
期末試験	
期末試験 講評	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印